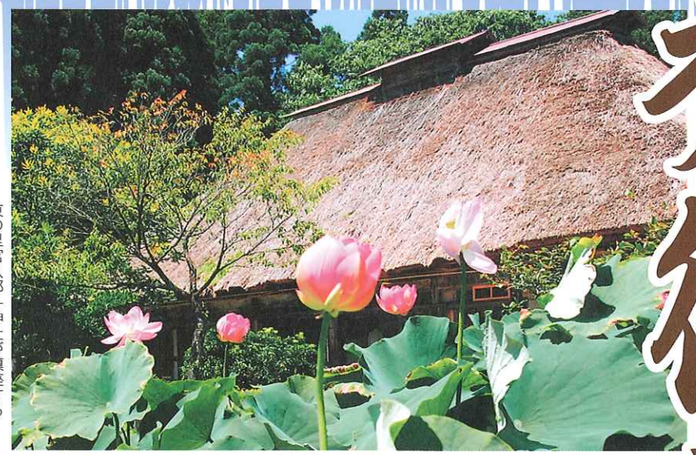
「黄金の道」秀衡街道ガイドブック

改訂版

黄金の道 秀衡街道



東の里宮久那斗神社が鎮座する多聞院伊澤家と中尊寺ハス（北上市）

平泉藤原氏の黄金文化を支えた鉱山群の一つ
鶯之巣金山跡（西和賀町）

秀衡街道のシンボルでもある「筏の大杉」。西の里宮筏隊山神社近くにある（横手市）

秀衡街道のあらまし

平安時代末期、東北地方を治めていた平泉藤原三代秀衡と黄金文化にちなんで名づけられた「秀衡街道」が、岩手県北上市から西和賀町を経て、秋田県横手市まで数十kmにわたって今に息づいています。

秀衡街道は、奥羽山脈のほぼ中央部を、北上川支流の和賀川と雄物川支流の横手川が浸食した、その山あいの横断谷を縫うように結ばれています。

江戸時代中期、高橋子績が著した「澤内風土記」には、「巣郷の一条は平易に同郡黒沢に通ずる也、かつてこれを秀衡街道と称す。」と記されています。いにしえの秀衡街道は、西和賀町巣郷から県境を抜けて横手市山内黒沢へ通ずる平坦な道で、陸奥・出羽両国交流の主要路でありました。

この道の最大の難所である和賀の仙人峠に、藤原秀衡が仁平年間（一一五一～五四）に、先祖の霊を仙人権現（現久那斗神社）として鎮座したと伝えられ、この神社の里宮が東西に勧請されています。

東の里宮は北上市和賀町岩沢の多聞院伊澤家（国指定重要文化財）の久那斗神社で、西の里宮は横手市山内筏の筏隊山神社（筏の仙人様）です。

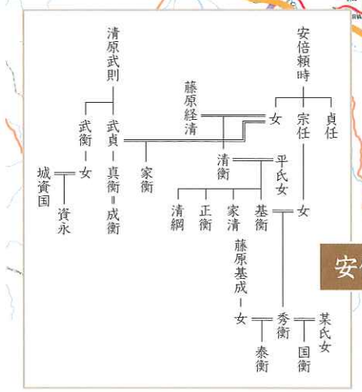
秀衡街道は、「黄金の道」とも称され、「たぬき掘り」の鶯之巣金山や畝倉山・明戸山などの金山跡、「秀衡掘り場」や「金商吉次の隠し金山」の伝承も残されています。

仙北の清原氏も金をたくさん持っていたと伝えられ、秀衡街道は黄金を運ぶ道でもありました。

樹齢千年の秋田県指定天然記念物「筏の大杉」、「全国森の巨人たち百選」に選ばれた仙人峠の「姥杉」などの神木も、この道のシンボルとなっています。

明治政府は殖産興業の一環として、平和街道（現国道一〇七号）を開削しました。その道筋は、秀衡街道の北側を切り開いて距離を短縮するコースでした。

平和街道の母体となった秀衡街道の所在を、岩手・秋田両県の先人達は、八百余年にわたって語り継ぎ、歴史と文化を今日に引き継いできました。



◎秀衡街道関係年表

西暦	年号	事項
一〇六一	康平五	◆安倍氏前九年の合戦で敗れる。清衡、母の再婚により清原氏の御曹司となる
一〇六三	康平六	◆清原武則鎮守府将軍となる
一〇八七	寛治一	◆清原氏後三年の合戦で敗れる　◆後に大鳥井柵（大鳥井山遺跡）は後に清衡の命で復旧される
一〇八九	寛治三	◆清衡陸奥押領使となり江刺郡豊田館に住す
一〇九五	嘉保二	◆この頃、清衡豊田館より平泉に移る
一〇九五	長治二	◆清衡、中尊寺の造営に着手
一一二二	保元三	◆秀衡生まれる　◆一一二四（天治一）中尊寺金色堂上棟
一一二六	天治三	◆中尊寺落慶供養を行う（中尊寺供養願文）
一一五一	仁平一	◆この頃秀衡、和賀（北上市）の仙人峠に先祖の霊を仙人権現（現久那斗神社）として祀る（伝承）
一一七〇	嘉応二	◆秀衡鎮守府将軍に、一一八一年には陸奥守となる
一一八七	文治三	◆秀衡没、泰衡その跡を継ぐ
一一八九	文治五	◆平泉藤原氏、奥州合戦で頼朝に敗れる。泰衡殺される
一三二五	正中二	◆横手市山内筏に、仙人峠の仙人権現を勧請（現筏隊山神社）、小野寺道宣社殿を創建する
一五三四	天文三	◆北上市和賀町岩沢の多聞院伊澤家に仙人権現（現久那斗神社）の里宮を祀る
一七六三	宝暦十三	◆高橋子績著「澤内風土記」に、秀衡街道・巣郷・黒沢が記される
一八六九	明治二	◆神仏分離令により仙人権現は久那斗神社と改称
一八八〇	明治十三	◆横手市山内の秀衡街道、平和街道予定路線となるも地元の反対で変更される
一八八二	明治十五	◆平和街道開通
一九二三	大正十二	◆仙人峠の久那斗神社の社殿再建、一九三九年改築される　◆一九二四（大正十三）横黒線（現北上線）全通
一九五五	昭和三十	◆この頃まで県境の秀衡街道、黒沢の当麻曼荼羅の参詣路として利用される
一九八一	昭和五十六	◆旧山内村郷土史編纂委員会、秀衡街道現地調査を行う
一九九〇	平成二	◆多聞院伊澤家住宅・久那斗神社国指定重要文化財となる
一九九二	平成四	◆北上市岩沢文化財愛護会設立される
一九九五	平成七	◆旧湯田町に秀衡街道探査会発足会員四十名、以降七年で町内秀衡街道二五キロをつなぐ
一九九七	平成九	◆秀衡街道湯田ダム水没の二キロ、国有林地内代替ルートの仮承認を得る。二〇〇〇年新ルート成る
一九九九	平成十一	◆鶯之巣金山跡で砂金採取体験を行う
二〇〇一	平成十三	◆旧湯田町秀衡街道パンフレット・学習下敷を作成、町内の小中学校で講座を開く
二〇〇二	平成十四	◆旧湯田町内二個所に秀衡街道案内板を設置する
		◆五月中尊寺より多聞院伊澤家へ「中尊寺ハス」株分けされる
		◆八月柏澤史郎氏「奥州・秀衡古道を歩く」を発刊
二〇〇五	平成十七	◆岩手県立西和賀高校生徒、秀衡街道現地学習を行う
二〇〇六	平成十八	◆横手市山内黒沢自治会、県境付近の草刈り作業をこの年から継続実施
二〇〇九	平成二十一	◆二月岩手・秋田県際交流事業実行委員会「黄金の道」秀衡街道フォーラムを横手市で開く
二〇一〇	平成二十二	◆二月横手市大鳥井山遺跡、国の史跡に指定される
		◆四月中尊寺より横手市山内筏隊山神社へ「中尊寺ハス」株分けされる

■主催／岩手・秋田県際交流事業実行委員会（事務局：横手市総務企画部市長公室）
■電話／0182-35-2189

2010年5月31日

◎北上市

◎Kitakami City

①北上盆地西部の交通の要所「瀬畑」

瀬畑の「秀衡街道」

瀬畑に立てられた秀衡街道の標柱

平泉から奥羽山脈よりに北進した秀衡街道は、北上市和賀町山口の瀬畑から西へ向かった。瀬畑は北上盆地西部の交通の結節点。和賀川には渡し船もあった。平和街道以前の小宿場。江戸時代、瀬畑以西の秀衡街道は仙北街道・秋田街道と呼びかえられていた。

②上須々孫館跡の経塚

上須々孫館跡の経塚。通路の左右に各一基

経塚から出土した渥美産陶器壺

秀衡街道沿いの経塚遺構は、和賀川に架かる煤孫橋の南六〇〇m地点、金ケ崎段丘の北側の縁が突き出た先端部に位置する。経塚は大小二基隣り合って並ぶ。十二世紀末の陶器壺渥美産二、須恵器系一、常滑産三筋文一、墨書礫等が出土した。

経塚の南西に広がる法量野には、源義経の家臣佐藤継信子孫の一族が落ちのびてきたという言い伝えがある。

③仙人権現別当多聞院伊澤家の住宅

多聞院伊澤家の住宅

岩沢の多聞院伊澤家は、西へ向かう秀衡街道沿いにある。和賀の仙人峠に秀衡が先祖の霊を祀った仙人権現（現久那斗神社）の別当で、羽黒派修験。中世には和賀氏の家臣であった。住宅は十八世紀末から十九世紀初めの頃の建物で、この地方一般民家の形式。上手座敷は社寺建築の修験道場を含む。江戸時代の山伏住宅の貴重な遺構として、平成二年、国の重要文化財に指定された。

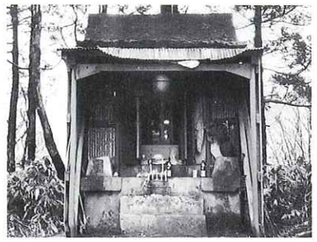
隣接の久那斗神社（重要文化財）は天文三年（一五三四）に勧請された里宮。

④中尊寺ハスと多聞院伊澤家

多聞院伊澤家の池に咲いた中尊寺ハス

昭和二十五年、中尊寺金色堂の御遺体学術調査の際、藤原氏四代泰衡の首桶からハスの種子が採取された。平成五年から培養、同十年に開花に成功。「中尊寺ハス」と命名される。八百年の眠りから覚めた中尊寺ハスは和蓮の一種、清楚で美しい。多聞院伊澤家は中尊寺ゆかりの地として、同十四年に株分けされた。

⑤仙人峠の仙人権現（現久那斗神社）と姥杉



仙人峠の仙人権現社（現久那斗神社）

湯田ダムの南、二キロ地点にある仙人峠は険阻で難所が多く、人馬の死傷が絶えなかった。秀衡は仁平年間（一一五一～）に往来の安全を祈って、先祖秀忠の霊を仙人権現として祀ったと伝えられる。社前の秀衡街道沿いにそびえ立つ樹齢八百年余の「姥杉」は、神木として植えたものという。平成十二年林野庁の「全国森の巨人たち百選」に選ばれた。

仙人峠の「姥杉」と秀衡街道

⑥水沢鉱山跡

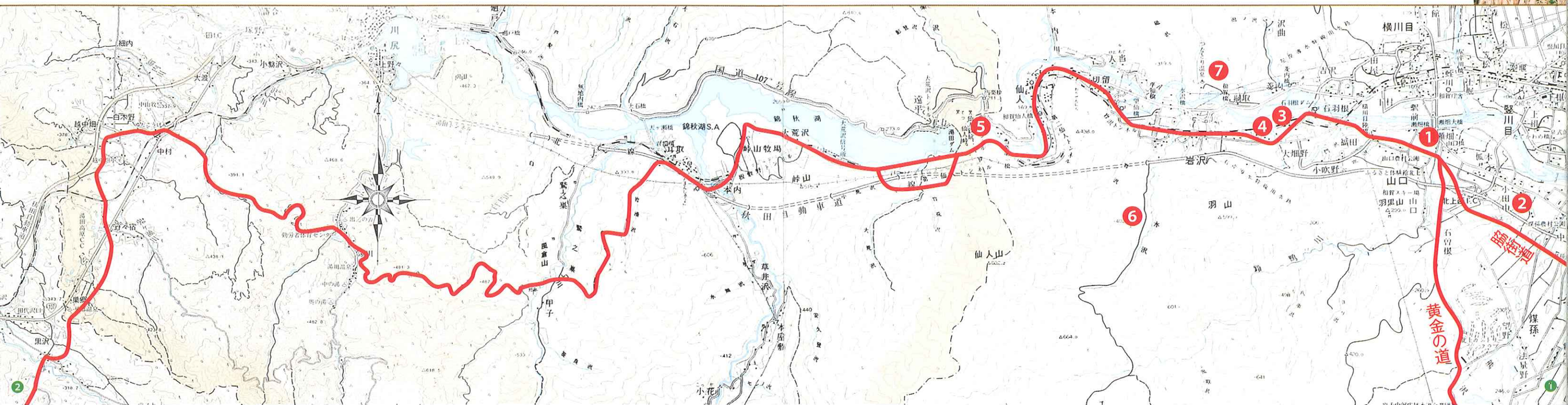
からみ煉瓦で造られた煙道（水沢鉱山）

仙人山（八八一m）東麓の水沢鉱山（銅）は平泉藤原氏の頃、金山と伝える。寛文元年（一六六一）開山、休山と再開を繰り返し、昭和二十九年まで続く。明治中期、古河市兵衛が経営し、明治四十二年には従業員数七一〇人、学校や郵便局、劇場もある鉱山集落が形成された。近年、文化庁による近代遺産（鉱山）調査が実施された。

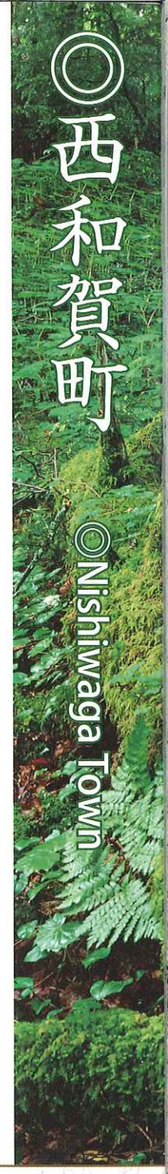
⑦金商吉次の隠し砂金取場「吉ノ沢」（綱取鉱山跡）

綱取層の西側の谷が「吉ノ沢」（綱取鉱山跡）

石羽根ダム上流部の北岸に綱取層が露出している。その西側に金商吉次の隠し砂金取場と伝える吉ノ沢がある。江戸中期にも採鉱したという。綱取鉱山の全盛期は、三菱合資会社が経営した大正初期。銅を主に、金・銀も生産した。当時の従業員数は三〇〇人余。



◎西和賀町 ◎Nishiwaga Town



⑧仙人峠の秀衡街道

仙人峠頂上付近の秀衡街道

霊峰仙人山の北尾根に位置する秀衡街道の仙人峠（標高四三六ｍ）は、旅人の疲れをいやす空間が広がる。峠までの山道は険しく秀衡街道最大の難所といわれた。明治七年岩手県が仙人権現（現久那斗神社）の東西三・三km区間の勾配を十五％以下にし、道幅三・六ｍに改修したが車馬の通行はできず、平和街道が開通する同十五年まで待たなければならなかった。

⑨大荒沢地区に新ルートを開設

仙人峠から大荒沢集落跡までの秀衡街道は、小松沢に沿って稲妻状に屈曲し、その先は湯田ダムに水没している。秀衡街道探査会は平成九年から新ルートの開設に取組んだ。国有林地のため許可を得て作業を行ない三年後に二kmの迂回路を開削した。

新ルート開削作業

⑩大荒沢銅山製錬所跡

平泉藤原氏時代の金山の一つ。後世には主に銅鉱の採掘に変わる。明治十七年齋藤辰五郎（北上市）が起業。同四十三年以降は藤田組が経営。大正六年の生産高一二二五ｔ。従業員数は千人余。からみ煉瓦で造られた二基の煙道が往時を偲ばせる。新秀衡街道は製錬所跡を通る。

大荒沢銅山製錬所の煙道と煙突跡

⑪峠山の一里塚

江戸時代、仙人峠から峠山の板敷野に至る秀衡街道は仙北街道と呼びかえられていた。元文四年（一七三九）沢内代官所書上絵図には、脇往還として仙北街道が記され、峠山一里塚（西和賀町指定史跡）が確認できる。築造は江戸前期と思われる。

仙北街道の一里塚（江戸時代）

⑫峠山から鷲之巣口へ

峠山板敷野から南本内川河口を渡って、岩盤が滑らかに傾斜する岩滑沢をさかのぼる。道は西へ向い小峠を越えると鷲之巣金山跡が正面に迫る。秀衡街道の鷲之巣口である。

秀衡街道鷲之巣口

鷲之巣金山緑青抗跡

⑬鷲之巣金山緑青抗跡

秀衡街道沿いには鷲之巣（風倉山秀衡堀）や安久登沢（金商吉次の隠し金山）、草井沢、大石沢、大荒沢などの金山が平泉藤原氏時代にあったと伝えられる。鷲之巣金山の赤倉鉱床緑青抗には、岩盤に蜂の巣状に開けられた坑道「たぬき堀」跡が残っている。坑道は人がやっと通れる大きさである。鷲之巣の金鉱脈は周りの母岩にも含まれているのが特徴で、近代的採掘により拡幅された所もある。大正六年の鉱主は共立鉱業。従業員数は五三〇人で大部分は和賀郡と秋田県出身者であった。

「たぬき堀」跡と思われる坑道跡

⑭桧峠（ひのとうげ）の大標柱

青森のひばの古材で造った大標柱

今は林道となっている秀衡街道の桧峠（標高五二五ｍ）は、鷲之巣から甲子（かっち）を経て湯川温泉に出る途中にある。昭和初期朝鮮人技師が立てたコンクリート製の「日の峠神」の標柱は残っているが「桧峠」と正したくて、湯川地区の有志が土畑鉱山から青森ひばの古材をもらい受け平成七年に建立した。

⑮秀衡街道沿いにあった巣郷集落

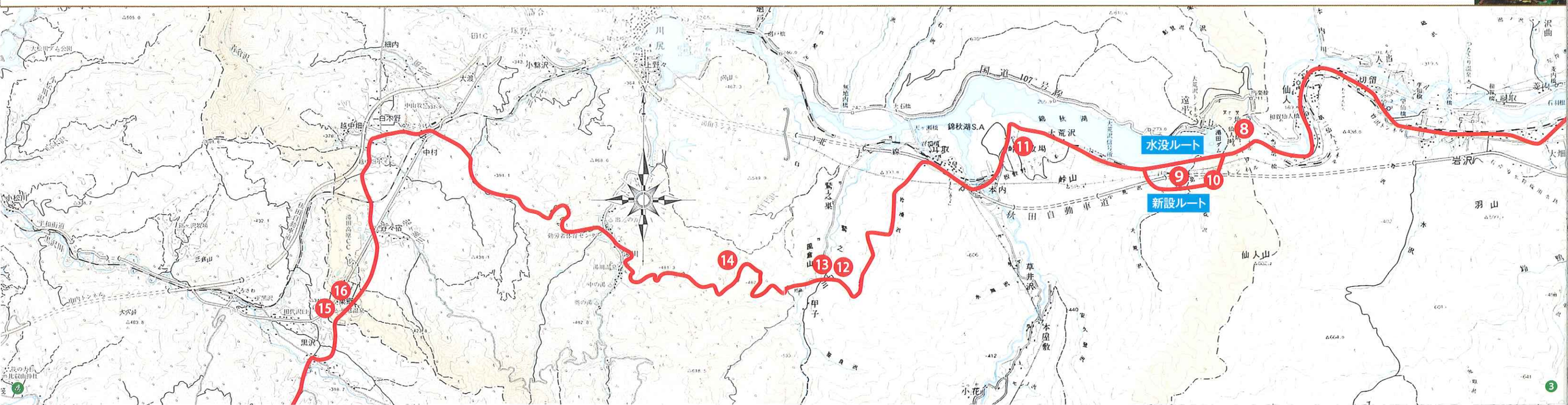
秀衡街道は国境付近で北側を通る白木峠越えの仙北街道と混同される。秀衡街道は南側の越中畑・野々宿・巣郷そして国境を過ぎて上黒沢への道筋である。巣郷集落は昭和五十年頃まで秀衡街道沿いにあったが、現在は国道一〇七号沿いに移転した。

昭和40年代の巣郷集落

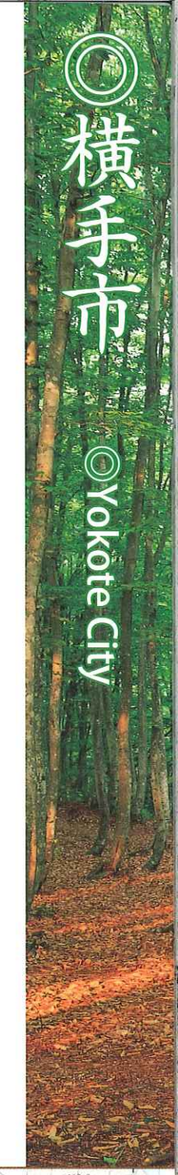
⑯巣郷に祀られている道祖神

巣郷集落の北側、秀衡街道の小川に1ｍにみたない石橋があり、東脇に「神様」と呼ばれる石仏が祀られていた。石仏は通行安全、悪疫防除をつかさどる道祖神で、彫像は不動明王像である。上黒沢の当麻曼荼羅（たいままんだら）詣でをする西和賀町の人達が昭和三〇年代までこの道を往来していた。

道祖神の石仏



◎横手市 ◎Yokote City



⑰陸奥・出羽の国境（山内黒沢）

秀衡街道は西和賀町巣郷を経て、陸奥・出羽の国境だった黒沢峠を越え、横手市山内黒沢に出る。黒沢の集落形成は古く縄文時代前期の越上遺跡、室町時代以降の黒沢館跡・黒沢古戦場・熊野山神社があり、当麻曼荼羅・百万遍念仏講も伝承されている。江戸時代には境口調役所が設置されていた。平和街道・国道一〇七号線・秋田自動車道・JR北上線は、それぞれ黒沢地区を横断しているが、秀衡街道は縦断して山内南郷に向かう。

国境口（山内黒沢）

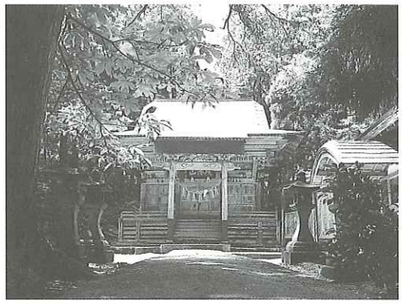
⑱古代郡郷制の村（山内南郷）

秀衡街道の経路は、山内黒沢の南の山間を抜けて、山内南郷に到達する。雨池遺跡・エコリ遺跡など遺跡が多く、修験系の金峰山神社も鎮まる南郷は、古代郡郷制下の村落に比定されている。清原氏の台頭をもたらした前九年合戦の伝説のほか、一六世紀の和賀・仙北合戦の軍記が伝わり、戦国時代の藤倉館跡・城屋敷跡・南郷古戦場がある。同地内の『八幡宮縁起』により、秀衡街道は南郷を経由する、衆知の道路だったことが分かる。

⑲西の守護神（山内筏）

道はやがて山内筏に至る。前九年・後三年両合戦の伝説を伝える城館遺跡、小野寺氏ゆかりの三十番神社（比叡山神社）、秋田県指定特別記念物「筏の大杉」が見られる。ここに鎮座する仙人権現社（今の筏隊山神社）は、『雪の出羽路』に「仙人峠に鎮まる神霊を遷し奉った」とあるように、仙人権現（秀衡街道の東の守護神）から分祀された。それで、秀衡街道のシンボルとも言われる中尊寺ハスが、この仙人権現社にも株分けされることになった。

三十番神社の筏の大杉


筏隊山神社

筏隊山神社前の秀衡街道

⑳矢向峠のふもと村（山内土渕）

横手川・黒沢川の落ち合う山内土渕は古くから物産の集散地で、武道沢・大台等で採取された砂金もここに集貨されただろう。矢向峠は上古の信仰形態を物語る旧地（後の一五世紀から南部街道の経路となる）。岩瀬遺跡（日本最古の石匙等出土）、虫内遺跡（縄文時代後期の巨大墓地）、鶴ヶ池塩湯彦神社（清原氏の氏神・塩湯彦神社の遥拝殿）、室町時代前半（推定）の和田城址、戦国時代の皿木城址・同根小屋跡・熊野神社・寺屋敷跡もある。

㉑藤原秀衡奉納の弓箭（大沢）

秀衡街道の大沢以西は判別しにくいが、秀衡街道研究会では現地調査等を重ね、それを横手川左岸のルートと推定した。道筋は回立―庭当田―大乗院塚だろう。回立は旭岡山神社の元宮の鎮座地である。坂上田村麻呂の創建と伝えられるこの古社は、古代郡郷制下の山川郷の鎮守で、藤原秀衡奉納の弓箭（焼失）を神宝としていた。なお、大乗院塚は縄文時代前期の遺跡であり、ほかに三井寺遺跡・西ヶ坂遺跡もある。

旭岡山神社

㉒源義家を救った蛇籠（四日町、蛇ノ崎町）

実は、羽根山―大沢―本郷の経路も看過できない。羽根山に金山長者伝説が伝わり、本郷は前記・山川郷の本村に比定されていて、秀衡街道と時代的に近いからだ。秀衡街道研究会はこれを研究課題として残した。また、市街地を流れる横手川の蛇の崎橋付近は、秀衡街道の通過点の一つと推測される。後三年合戦の際、源義家はここで清原氏の軍兵に橋を落とされ川に転落したが、川岸の蛇籠（石を詰めた竹籠）につかまり命拾いしたという。

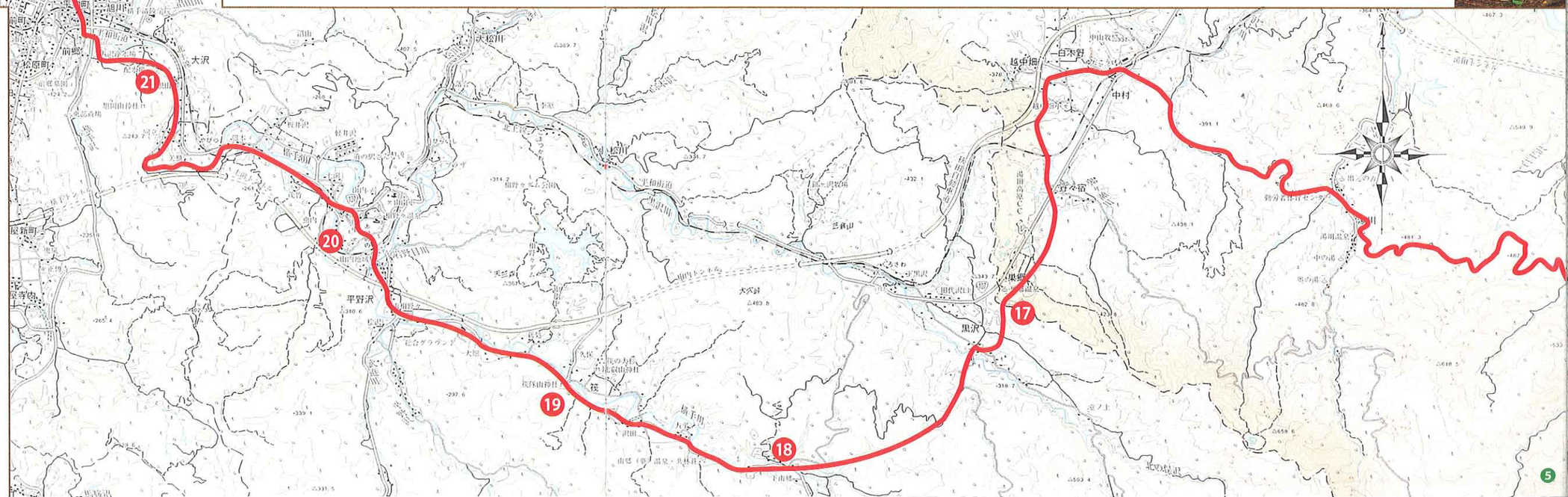
昭和4年頃の蛇の崎橋
（『写真集　思い出のアルバム横手』無明舎刊より）

㉓清原氏宗家の本城（大鳥町）

秀衡街道の終点（秋田県側の起点）はどこか。秀衡街道研究会としては大鳥井柵（大鳥町）と推定した。古書に「（秀衡街道は）当初巡国之往還乎」とあって、金鉱輸送に加え路次駅伝の機能も考えられるからだ。右の大鳥井柵（清原氏宗家の本城）は、後三年合戦に敗れ炎上して果てた。だが後に、藤原清衡の命により復旧されている。清衡の三男・正衡は城館名を関根柵と改めて居城し、清原氏の勢力圏を鎮静させ統治したと言われている。

掘立柱建物跡

金沢柵跡

㉔産金地上の要害（金沢）

終点については、金沢柵（金沢）とする見解もあり、論議の余地がある。後三年合戦の決戦場となって陥落した金沢柵は、搦手口から砂金を採取でき、産金地上に築かれた城（別称・金洗城）だった。秀衡街道はそこまで通じていたという推論である。だが、約十km離れた大森町では秀衡街道・秀衡橋のほか秀衡という小字名が、古来使われてきた事実もあり、秀衡街道を金沢柵あるいは大鳥井柵までと限定することへの異論もある。